

気性の荒いアフリカスイギュウ

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

アフリカスイギュウは見るからにたくましい体型です。体重はオスが700～800キロ、メスでも500～600キロに達します。

特徴のある大きな角は、根本から左右に下がったあと、両外側へ大きく上に向かって伸び、まるで“ナポレオンの帽子”のよう……(写真1)。メスの角はオスほどに大きくなりませんが、角自体はあります。

生まれて間もない幼獣には当然のことながら角はなく、成長するのに従って、小さな鬼の角のような突起が見られるようになります。面白いことに、最初は離れて見える角が、次第に近寄り、やがて成獣になりますと、根本が完全にくっついたように見えます。これは角が大きくなるのに合わせて、頭部の毛が抜け、頭皮が固くなり、角質化するためです。

ところで、アフリカに暮らす野生動物のなかで、“ビッグ・ファイブ”といえば、アフリカスイギュウ、ゾウ、サイ、ライオン、そしてヒョウのことをさしますが、その中でもいちばん気性が荒く、恐れられていたのが、

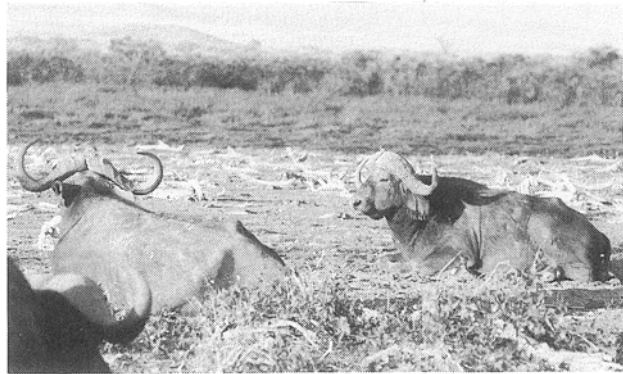


写真1 アフリカスイギュウの角はナポレオンの帽子

アフリカスイギュウです。

かつてアフリカで盛んに狩猟が行われていた頃、ハンターたちの間では、アフリカスイギュウによる死傷者が続出していました。気性が荒いだけでなく、復讐や救援という観念もあるといわれているアフリカスイギュウは、射たれて手負いになった時、一度逃げても必ず回り込んで待ち伏せし、ハンターに襲いかかるのです。また子どもが襲われた時は、母親だけでなく群れの中の成獣が力を合わせて、相手を蹴散らすことも少なくありません。

ライオンですらアフリカスイギュウを餌物にするのは稀で、他に餌物がなく、よほど

切羽詰まった時だけです。それも数頭以上で追い込まなければ、アフリカスイギュウは倒せません。

ある時、タンザニアのンゴロンゴロ火口原で、ライオンの餌物になったアフリカスイギュウを見たことがあります。ライオンは3~4倍もの大きさのアフリカスイギュウを前に、誇らし気な顔をしていました(写真2)。

アフリカスイギュウはその名の通り、水場(池, 川, 湖など)から 10 数キロ以内の距離の草原, 森林, 疎林帯などに群れて暮らしています。多い時は数百頭もの大群になることもあります。しかしその一方で, 年老いたオスはオスだけの群れで暮らすか, まったく単独で暮らすこともあります。

アフリカスイギュウの肩や背中, 足元には, 小さな鳥たちがいることが少なくありません。たとえば“ウシツツキ”という小鳥や, 全身が真っ白な“コサギ”“チュウサギ”は, 虫を食べるために集まります。

特にウシツツキは, アフリカスイギュウの耳の中, 鼻先, 背中などにとまって, せっせと虫を食べてくれるので, アフリカスイギュウも気持ち良さそうに, されるままになっています。またコサギやチュウサギは, アフリカスイギュウが移動するたびに, 足元の草の中から驚いて飛

び出してくる虫を捕らえようと, いつも注意深く草むらに視線を送っています。アフリカスイギュウと鳥たちは, いわば“持ちつ, 持たれつ”の関係にあるのです。

ところで過日, 標高5,199メートルのケニア山を眺む, 海拔2,000メートルを超えるアバーディア山麓へ出かけた時, 運良くアフリカスイギュウの出産に立ち合うことができました。百頭近い群れが水を飲みに行ってきた時, その中の一頭が落ち着かない様子で立ったり座ったり……。やがて子どもの脚が見え始め, 母親は群れの中をぐるぐる歩き回った末, ようやく無事に出産を終えました。5分, 10分, 15分が過ぎ, 子どもはけん命に立ち上がろうとしますが, すぐ座り込んでしまいます。カメラを手にした私も「もう少し, 頑張って」と思わず声援を送り, 数十分後, とうとう子どもは立ち上がり, 母子並んで歩き出しました。



写真2 死闘の末に倒した餌物を食べるライオン家族

〈アフリカスイギュウひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア, タンザニア, ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で, アフリカスイギュウはニャティ, またはボゴと呼ばれている。

▶野生のアフリカスイギュウの寿命は, オス, メスともに25年ほど。生まれて2年位で成獣になる。妊娠期間は11カ月位。誕生時の体重は30キロ前後。